



Article / Stool 00
使い捨てるの真反対にある物

アルヴァ・アアルトが1933年にデザインし、現在も生産が続いているフィンランド製の家具、アルテックStool 00。90年以上ものあいだ、世界中で愛用され続けるには理由がある、ハズ。パッと見て「似たようなstuhlがいくらでも安く売られてるよね。」と言う人もいます。シンプルなstuhlだから遠目にボンヤリした物なら安く入手できるのは確かですが、其れと此れとは全くの別物、使い続けた先の未来も正反対です。Stool 00の価値はデザインだけでなく、長く愛用できるという非常に当たり前のことが当たり前にできる点が大いだと思います。だからこそ世界中にユーザーは増え続け、歴史が積みあがり、作られた物はゴミにならずに長く保つという結果に至るのですから。それには長く使えるというだけでなく、誰もが長く使いたいと思える物である必要があります。どうして、そんなに長く使い続けられるのだろうか？それは材料と構造に理由があります。脚部の曲げ部分だけを見て、脚は積層合板だと思いついて入る人も多いのですが、それは間違いです。脚部はフィンランド産のバーク無垢材、つまり角材の先にスリットを入れ、そのスリットに合板を挟み込んで曲げています。無垢材の先だけを曲げやすく加工しているというのが正解です。無垢材ですから、ダメになる事がほぼありません。またリノリウムやラミネートのモデルを除き、天板面は突板と書かれています。一般的な突板とは違い非常に厚く、天板内部は脚部と同じ無垢材で組まれています。その天板に脚を直接ネジで取り付けている！シンプルで豪快！だから長く愛用できるのです。何十年も使い倒された古いstuhlが捨てられるのではなく、不要となれば買いたい人がいて、ずっと使い続けられていくと思います。もし、捨てられていけば喜んで拾ってくれる人がいる物です。実際にフィンランドでは、そんな話をよく聞きます。使い捨てるの真反対にある物だと思えば、その価値は使い捨てるの安いに大きく勝ってしまいます。

※写真は色々な場所に使われていた使用年数様々のStool 00のリノリウムを積み上げています。

